

東京の産業と教育

会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

人材育成に産学公の一層の連携を

東京経営者協会 常務理事

平井 康行



創立70周年を迎えます東京経営者協会は、2002年、それまで共同事務局として一体的に活動してきました日経連と経団連との統合を契機に、経団連傘下の東京地域の総合経済団体として活動を強化する中、大学を中心とした人材育成、キャリア教育支援などの産学の連携を活動の大きな柱の1つとしています。

まず、インターンシップ関係では、大学と企業の担当者が情報交換する「産学交流会」を開催しています。また、バスツアーによる学生や教職員を対象の「働く現場見学会」では、主に中堅・中小規模のB to B企業の製造・開発現場等の見学と若手社員との懇談を通じて参加者より働くことへの理解を深める貴重な体験と評価頂いています。さらに、「企業人による大学への出前講義」では、年間を通じた正課の授業としても活用頂いています。その他、就職・採用担当者のための産学交流会、会社合同説明会、会員大学代表者との懇談なども開催しています。

さて、わが国の最大の資産は人材です。数年前に当会の欧州企業視察団でドイツを訪問した際、人口がわが国より4000万人も少ないドイツのEUあるいは国際社会における経済的、政治的な存在感を目の当たりにして、改めて人材の育成の必要性を痛感しました。そうしたわが国においては、教育・研修等の人材育成投資を通じて労働の質を高めることで労働力の量と質の両面の確保に対応していくことが求められていると思います。そのためには、初等中等および高等教育で共通する学力の低下、職業意識の希薄化、グローバル化への対応などに直面する学校教育のあり方が大きく問われることとなります。

学力の低下問題では、基礎学力の強化は人材

育成の基盤であり、小・中・高校における、いわゆる「読み・書き・算盤・PC」学習の強化・徹底と学習成果を継続的に確認する仕組みを作るとともに、高校教育と大学教育の接続、継続を図る必要があります。特に専門高校からの進路の複線化に向け、たとえば、工業高校から高等専門学校や大学等への円滑な編入学制度等による複線型教育システムの整備を進めることも必要と思います。

また、職業意識の希薄化に至っては、いまや大学関係者より国内外におけるキャリア教育への支援、要請が高まっています。初等中等教育段階から就業・職場体験学習等のインターンシップの拡充などのキャリア教育の継続的な取り組みが急がれます。

最後に、グローバル化への対応では、世界はグローバル経済化やICT化の進展により緊密な関係にあり、グローバル人材の育成も急務です。初等中等教育における英語教育の強化はもとより、海外インターンシップの仕組みの構築も求められます。同時に企業は、国内に研究開発やマザー工場の機能を残そうとしていますので、専門技能労働者の育成、確保も急務です。

教育はまさに国家百年の計です。戦後のいわば欧米へのキャッチアップをめざした課題解決型からフロントランナーとしての課題探求型の教育に大きく転換する必要があります。そのためには産・学・公が連携して、次代を担う人材の育成、確保、活用の仕組みづくりに取り組むことを急がなければならないと思います。当会としても、引き続き、貴会をはじめ各教育機関等の関係者と連携して、わが国経済社会を牽引する首都東京の人材育成やキャリア教育の推進に取り組んで参りたいと思います。



〈実践報告〉

普通科高等学校における農業の六次産業化と キャリア教育の取り組み

蒲田女子高等学校

教諭 佐々木 輝人

1 はじめに

本校は昭和16年、「財団法人簡野育英会 蒲田高等女学校」として設立されました。平成6年に5つのクラス制を導入し、将来の夢に合わせたクラスが選択できるようになりました。

平成27年度より、5つのクラスが統合し、「幼児教育・保育コース」と「キャリアデザインコース」となり、さらなるキャリア教育の充実を図っています。

2 教育活動

各コースで、特色あるキャリア教育を行っている中で、核となるテーマを決め、各コースからテーマに向けて独自のアプローチをしています。そして、コース制のさらなる活性化と、生徒の進路選択の視野を広げるチャンスとしています。さらに「農業の六次産業化」に着目し、様々なアプローチを行っています。また、この教育活動を進めるにあたり、全面協力の農林水産省をはじめ、東京都大田区産業経済部、千葉県館山市経済観光部などの行政や、NPO法人南房総農育プロジェクトなど様々な団体・企業からもサポートを受けています。

(1) 事前学習

活動のはじめとして、農林水産省が行っている「農業女子プロジェクト」の主役である現役の「農業女子」の方に、就農に対するきっかけとして、職業選択での葛藤、さらに農業の素晴らしさと可能性について講演をしていただきました。生徒の農業に対するイメージと将来の可能性を模索させる目的です。

(2) 田植え体験と就農者との意見交換

千葉県館山市のご協力の下、田植え体験をし、地元農家さん手作りの昼食を頂いた後、若手就農者の方と意見交換を行いました。

た。農業に対する素朴な質問から、未来へ繋がる共同商品開発を提案するなど、生徒はもちろん、千葉県館山市の活性化に繋がる可能性もあります。

(3) 事後指導

実地経験をもとに、自分たちが植えたお米の「商品ブランド名」と「商品ロゴマーク」のコンテストを校内で実施し、その年のシンボルを生徒の投票で決定をしました。

決定したシンボルを巨大看板として、デザインクラスが中心となり作成し、完成後は田んぼの横に設置しました。さらに、文化祭で販売するため、シンボルマークをシール化し、袋詰めから販売までをすべて生徒たちの手で行いました。他にも「六次産業化」の可能性として、今回は「農業服」をデザイン・製作まで行いました。

3 今後の可能性

年度ごとに創造性ある「商品ブランド名」と「商品ロゴマーク」が生み出され、また、生徒たちのアイデアが様々な商品化へと結びつく可能性があります。さらに、商店街や企業、行政との連携を強化することで、地域社会の活性化にも貢献できます。最後に、生徒たち自身の進路選択の可能性における視野を広げる最も有効な活動であると考えています。



〈実践報告〉

高大連携 課題研究の取り組み「葛鹿ロコモコ丼」商品開発について

東京都立葛飾商業高等学校

教諭 加藤 美智子



1 はじめに

本校は昭和37年に創立され現在は商業科4学級、情報処理科2学級、計18学級の学校です。

教育課程を26年度より改定し課題研究を2年・3年で各3単位ずつ計6単位設定しています。

2 課題研究「商品分析」での取り組み

東京理科大学が葛飾区金町にキャンパスを移転しました。葛飾の名前にちなんだ新名物をつくりたいという理科大職員の方のアイデアより考案された「葛鹿バーガー」を大学構内のカフェで販売しています。1日に10個ほどの販売数であることを理科大の取材活動から知りました。美味しい「葛鹿バーガー」ではありますが、カフェでは理科大生が昼食をとる様子は少なく、学生の多くは2千人が一度に食事のできる学食で昼食をとっている様子でした。



そこで私たちは、理科大広報課・学食運営会社にお申し、より多くの理科大生が昼食に食べたくなるようなご飯を用いた丼物として、「葛鹿バーガー」をリニューアルした新商品の提案をさせていただくことにしました。

開発にあたっては、フード&カラーコンサルタントである金谷麻紀子氏を講師に迎え、「赤や緑の食材で彩を工夫すると栄養のバランスが良くなる。見た目も良くなることから、売り上げも上がる。」というご指導を頂き、色と栄養

のバランスを考えて新商品を考案しました。

学食運営会社のご協力により「葛鹿ロコモコ丼」は4月3日（金）1日だけの限定80食の販売を実施しました。大学生には高額な450円での販売のため、ポスター・チラシを本校生徒が作成し事前告知をしました。

販売当日は本校生徒がチラシの配布と「葛鹿



ロコモコ丼」をPRしました。その結果販売開始から45分で予定していた80食を完売しました。



男子学生の多い理科大生に合わせたご飯ものとしての商品提案、カフェから学食へ多くの人が集まる場所での販売が実現することにより短時間に約8倍の売上げ数になり、実践的かつ生きた学びを体験することができました。

「第21回三宅島緑化プロジェクトでリーダーとして学んだこと」

東京都立園芸高等学校

園芸科3年 半澤 大樹

私は、稲や野菜について勉強したいと思い「園芸高校」に入学しました。園芸高校では、稲の授業はありませんでしたが、野菜や草花、果樹の基礎知識などの農業全般について日々、勉強しています。野菜の実習では、どのようにして栽培されているのか、どのようにして流通しているのかなど勉強しています。草花の実習では、たくさんの花の品種を覚えることや、種から花を育てたり花壇に植栽したりします。果樹の授業では、いろいろな果物の樹の仕立て方や、年間の管理について勉強します。入学前は、野菜は簡単に育てられることができると思っていました。しかし、実際に育ててみると水やりの方法や肥料の与える時期などたくさん覚えることが多く、何度も失敗しましたが「農業は奥が深く面白いな」と思い、さらに農業に興味を持つようになりました。普段では通り過ぎていた公園の木や草花なども目に留まるようになり、身近にある自然の大切さを実感しています。

園芸高校は部活動やプロジェクト活動も盛んで、私は三宅島緑化プロジェクトに参加しています。このプロジェクトが発足したきっかけは、2000年に三宅島の雄山が噴火したことにより、島の約60%の緑が失われ、土砂崩れなどの危険性がありました。そんな状況を「どうにかしたい!」と思った先輩方が、このプロジェクトを2004年に発足し、2005年の6月に第1回現地活動を行いました。毎年、春と秋の2回活動を行っています。

普段学校での活動は、みんなでどんな花を三宅島に送るのかを決め、種から育て苗が大きくなったら三宅島に送ります。送った花は、島民の方とともに交流しながら島内の花壇に植栽しています。また、現地では三宅高校の方や森林組合の方と一緒に、立ち枯れた木々の並ぶ雄山に植樹をしています。秋の活動では玉ねぎの苗も栽培し、三宅島の産業祭で島民の方々に配布しており、とても多くの人と関わりながら、私たちは活動しています。昨年で10周年を迎えることができ、これまでの参加者数はのべ約2280

人、植樹本数は約35万7000本になりました。

私は、昨年の9月からこのプロジェクトのリーダーを務めさせていただいています。「効率よく作業するにはどうしたらいいか」や、作業の進み具合に合わせて、その日の活動内容などを決め、メンバーをまとめてきました。時には失敗してしまい、メンバーの足を引っ張ってしまうこともありましたが、島民の方に「楽しかったよ、次回も来てね」と言われた時は本当にうれしく、ここまで頑張ってきてよかったと思いました。

学校の先生をはじめ、多くの先輩方やメンバーのお陰で、私はこれまで頑張ってきたのだと思っています。現在、私は「第21回三宅島緑化プロジェクト」の現地活動が無事に終わり、リーダーの任期も終了し、次期リーダーを決めているところです。今までご指導して下さった先生方や共に活動してきたNPO法人園芸アグリセンターの方々に感謝して、また次回につながるように、自分の目標でもある「どんなに辛くても、笑顔でがんばる」を後輩に伝えていきたいです。

このような貴重な機会を頂いたことに感謝し、これまで三宅島緑化プロジェクトを引き継いで下さった先輩方を尊敬するとともに、これからも三宅島緑化プロジェクトを支えていけるようになりたいと思っています。



※写真は、三宅村村長に草花苗の目録を贈呈する半澤君。三宅島雄山にて。

「八丈高校に入学して」

東京都立八丈高等学校

家政科2年 豊田 ののか

私は現在、東京都立八丈高校家政科で、郷土料理や和服・洋服に関する知識と技術、子どもの発育について学んでいます。八丈高校は東京都八丈島にある唯一の高校で、生徒数は157名です。そのため、文化祭などの行事では一人一人の役割が多く、忙しくなります。しかし、達成感が大きく、次の行事への志も高まります。先生との距離は大変近く、濃く学ぶことができます。八丈高校からは八丈富士や三原山などの山々、そして海を眺めることができます。豊かな自然に囲まれているため、のびのびとした学校生活を送ることができます。

さて、八丈島では昨年度から「八丈島リーダーシッププログラム」が始動しました。このプログラムの目的は、「ハワイでの生活体験を通じて語学や文化を学ぶ。八丈島との文化の違いや共通点を知る。」などです。「他国を知り、自国を知って、島の活性化」にもつながります。このプログラムに、八丈高校から私を含めて2名が参加しました。6か月以上の事前学習を重ねた後に、ハワイのオアフ島で一週間の研修を行いました。研修の内容を紹介します。

一日目は、ハワイ大学でハワイの文化や言語について学びました。

二日目の午前は、オーガニックを大切にしているファームを訪問しました。このファームにはレストランがあり、ホームレスの方を雇い社会復帰させる活動もしています。午後は、リゾート地であるコオリナリゾートを訪問し、近代的なアメリカ資本をどのように招きいれているかを学びました。

三日目の午前は、古くからの養魚法を復活させようとしている養魚地を訪問し、用水地の仕組み等を知りました。午後は、ハワイネイチャーセンターで、ハワイの自然を学ぶとともに、在来種を外来種から守るための伐採作業を体験しました。

四日目の午前は、ハワイでは発展途上である酪農の牧場を訪問しました。午後は、ハワイ大学で、学生にインタビューを実施しながら大学の様子を調査しました。

五日目の午前は、ハワイアンが主食としているタロイモの畑を訪問し、実際に畑に入り泥をかき混ぜるお手伝いをしました。午後は、ハワイ大学で「八丈島物産展」を開き、英語のみ

で案内しました。学長をはじめ多くの学生が八丈島に興味を持ってくださいました。また、学生を対象に「自分達の暮らす八丈島と“これから”」と題して約15分間のプレゼンテーションを英語で行いました。

八丈島はハワイ同様に古くからの歴史や文化があります。ハワイは一度、文化や信仰、言葉を全て失ったそうです。その後、多くの人々の努力により、文化等を取り戻しつつあります。八丈島には大学がないために、八丈高校を卒業後、生徒のほとんどは島を離れます。そのため、若者世代が少なく、人口は減少していて、文化や風習は色褪せるばかりです。また、方言の「島言葉」は現在、絶滅危惧言語になっています。

私は生まれ育った八丈島が大好きで、島の豊かな文化を失いたくありません。この強い思いをハワイでの研修で再確認し、気持ちを高めることができました。ハワイで出会うことができた方々は、「何かを必死で守りたい、変えたいと思った時には、そう思った瞬間から動かなくてはいけない。」と語っていました。その言葉に心を強く打たれました。私は、このプログラムで、自分自身の意識改革と大きな財産となる貴重な体験をすることができました。八丈島で育ち、そして八丈高校で学ぶ生徒だからこそ実感できたのだと思います。

八丈高校を卒業後は、観光に関する学校へ進学したいと思っています。もちろん一度、島から離れてしまいますが、必ず八丈島に戻るつもりです。そのために、今の八丈高校家政科での生活に全力を尽くしたいです。



※写真は、三日目の養魚地にて、ヤシの実を抱えているところ

株式会社 川邑 研究所

〒153-0003 東京都目黒区目黒 1-5-6
 代表取締役 川邑 正広
 TEL : 03-3495-2121

事業内容

弊社は、1911年創業の固体被膜潤滑剤の専門メーカーとして「デフリックコート」という製品の研究開発から製造販売までを一貫して行っております。固体被膜潤滑剤は塗料型の潤滑剤で、油やグリースが使用できない高温、真空、高面圧といった過酷な環境で使用される潤滑剤です。様々な機器が高性能になると、これまでは通常の潤滑剤で十分であった部品が機能しなくなるケースが増えます。弊社製品はその様な場面で広く活用して頂いておりますが、お陰様で昨今は宇宙から身近な自動車や家電まで幅広い分野で使用して頂いております。

潤滑剤は、ほとんど意識されずに使用されることが多いのですが、ひとたび不具合が起こると装置全体が機能しなくなるため、地味ではありますが常に重責を担っているという気概で取り組んでおります。これからも人様の役に立つ事を第一に邁進して参ります。

青少年の方々へのメッセージ

私どもの取り組んでいる潤滑という分野は、トライボロジーと呼ばれますが、いわゆる学際領域の学問であり産業になります。化学、機械、材料と言った広い知識が求められるため、一人前の技術者になるのには相当の年月を要します。つまり仕事のおもしろさが体感できるまでには、かなりの時間を要してしまうということになります。スポーツの基礎練習のように、地味な反復の中に将来飛翔するのに必要な礎があることを若いときにこそ是非とも覚えて頂きたいと思っております。



株式会社 竹尾

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-12-6
 代表取締役社長 竹尾 稔
 TEL 03-3292-3611 URL <http://www.takeo.co.jp>

会社紹介

【「紙問屋」から「ものづくり企業へ」～時代にチャレンジするクオリティーカンパニー～】

当社は1899年（明治32年）に東京・京橋で紙問屋として創業しました。1907年（明治40年）に神田に移転し、今年で創業116年を迎えます。

当社は創業以来、高級特殊印刷用紙（ファインペーパー）の分野に力を入れて来ました。ファインペーパーは多彩な色・質感・風合いを持ち、私たちの五感に語りかけ、書籍・パッケージ・ステーションナリー・カレンダー・カタログ等様々な場面で使用され、日々の生活を彩り豊かにしてくれます。当社は紙という素材をデザインとテクノロジーと結び付けることで高品質の紙加工品を生み出し「ものづくり企業」として紙の価値を追求し続けています。



1階ショップ

写真：見本帖本店

【紙の魅力に触れてみませんか】

紙はいつでもどこにでもあって、当たり前のような存在ですがその多様性は見過ごされがちです。しかし、紙の魅力を知らためて身の回りを見渡すと「こんなところにも紙が！」という発見と感動に出逢えます。紙の素晴らしい魅力に触れていただける場所が見本帖本店（神田錦町）です。1階のショップでは約2,700種類の紙に触れることができ、2階では紙とデザインに関する企画展示をご覧頂けます。皆さんの想像を越えた紙に出逢うことができます。さらに、6月には新たに竹尾見本帖（銀座・伊東屋7階）をオープンしました。表情豊かな紙が皆さんをお待ちしております。



2階展示スペース

新 会 員 校 の 紹 介

日本ウェルネススポーツ専門学校

〒 179-0071 東京都練馬区旭町 3-23-22

TEL : 03-3938-2372 FAX : 03-3938-9435

本校は、1998年（平成10年）4月に開校された体育スポーツ・健康づくり及び、情報技術に関する知識・技能を修得するための専門教育を行い、その分野における指導並びに社会活動に対応し得る人材を育成する専門学校です。

本校はオリンピック出場、世界選手権優勝、国際大会優勝等、数々の実績を残しているスポーツ専門学校の名門校です。

競技スポーツを中心としたアスリート（硬式野球・サッカー・陸上など多数のスポーツ）の他、スポーツトレーナー（トップアスリート、スポーツクラブ、学生のトレーナー）、スポーツインストラクター、保育士・幼稚園教諭（保育科Ⅱ部3年制、平成28年4月開設予定、認可申請中）、幼児体育指導者のスペシャリストを養成します。

学校主導の徹底した就職支援による高い就職率と、たくさんの方の専門資格を取得できることが特色です。

専門特化型教育

本校では資格取得や職場研修、スポーツ競技会参加など専門特化型のカリキュラムを組んでいます。教育を担当するウェルネス自慢の講師陣には、各界の第一線で活躍する指導者や実務家、研究者が勢ぞろいしています。

資格取得のサポート

本校ではさまざまな資格の認定校・適応校になっています。試験や講習会が免除されるので、資格を取得しやすい環境が整っています。試験がある資格では、通常授業と特別授業の中で、万全の資格対策を行っています。

就職活動のサポート

本校では在校生、卒業生の活躍が各界での力になっていると関係業界から高い評価を得ています。

学内では、定期的に企業の採用担当者を招いて学内企業説明会を開催しています。就職サポートスタッフが企業と学生との連絡・調整を行うので、学生は安心して学校生活、部活動等に集中できます。

業界初。専門学校・大学連携の内部推薦制度

本校グループでは、スポーツ業界初の「専門学校・大学連携の内部推薦制度」が誕生しました。本校の卒業生は内部推薦により、「日本ウェルネススポーツ大学」の3年次に編入学できます。3年次編入の際、本校での取得単位が大学の単位として読替えされるので、編入後無理なく2年間で大学を卒業できます。

また、日本ウェルネススポーツ大学では「保健体育教員免許」の取得が可能です。

本校卒業後、大学にて学位を取得し、職業に直結した実践力を深めたい方には、この内部推薦制度による編入学はお勧めです。



早稲田速記医療福祉専門学校

〒 171-8543 東京都豊島区高田 3-11-17

TEL : 03-3208-8461 FAX : 03-3209-6454

■21世紀社会を支える、医療・福祉分野のスペシャリストを養成

本校はもともと速記の普及を目的に設立されましたが、1972年に日本初の医療秘書科を開設し、現在は医療秘書の伝統校として病院から高い評価を得ています。1997年には介護福祉科を開設して福祉分野の教育をスタート。2002年には医療分野の鍼灸医療科を開設しました。2015年より河北医療財団から事業継承するかたちで看護科を開設し、看護教育にも取り組み始めました。医療と福祉、二つのカテゴリーで「専門事務職」と「専門技術職」それぞれのスペシャリストを養成しています。

■SOKKI独自の「専門教育」と「社会人教育」で、職業人として社会に貢献できる人材を育てる

本校の教育の成果は、本校の卒業生に対する社会の評価が示してくれるはずだと信じています。

そのための実践として、本校では高度な専門知識と技能を持った人材を養成すべく、充実した「専門教育」のプログラムと、実務に必要な資格や免許を取得するための万全のサポート体制を、各学科が用意しています。

しかし、卒業後に希望する業界で活躍するためには、これらの専門知識や技能に加えて、「社会人としての総合力」が求められます。この「社会人としての総合力」は、《考える力=Think》、《積極性=Positive》、《対話力=Communication》という三

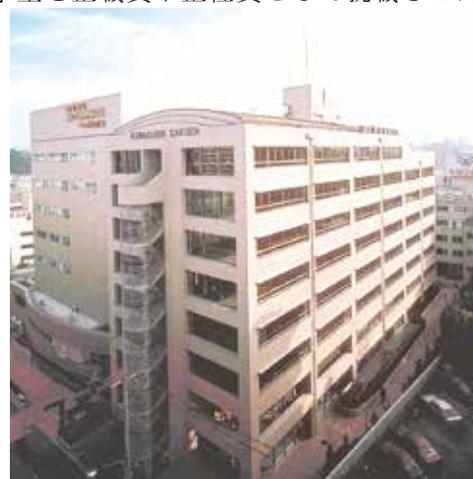
つの要素から成ると、本校では捉えています。

就職した後も、組織の中核的な人材として長く活躍できるよう、在学中はもちろんのこと、卒業後も「卒業生支援講座」など、あらゆる機会を活用して、一人ひとりの専門性と社会人としての総合力を高めるため、教職員が一丸となって支援しています。

2-40PROJECT（ツー・フォーティ・プロジェクト）と名付けた、この全校的な取り組みは、変化する時代において、常に必要とされる人材の基本的な要件を明らかにし、強化するためのものです。

本校は、学生を正職員や正社員として就職させた

時点で、教育の役割が終わるとは考えていません。彼らが卒業してからも、母校として誇れる学校であり続けたい。それが教職員一同の願いです。



新 会 員 校 の 紹 介

東京YMC A医療福祉専門学校

〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-35-11

TEL 042-577-5521 FAX 042-577-5506

本校は東京都国立市に位置する「介護福祉士」と「作業療法士」を養成する指定養成施設です。専門学校の開校は1996年であり、2015年度で20年目となります。「互いに愛し合いなさい」というキリスト教の聖書の言葉をカレッジスピリットとして設立されています。

文教地区に指定されている国立市は教育環境にすぐれたものがありますが、それと同時に一人暮らしを実現している障害者が多い地区としてもよく知られています。路上において車椅子の授業などをしてしていると障害者の方と間違えられて市民の方が手助けをして下さるような事もあります。

卒業生は、在校生の実習を指導したり、あるいは特別授業で学校に足を運び在校生へのメッセージを伝える事も多々あります。そして就職先には卒業生が先輩・上司として活躍している事も多く、先輩が後輩を育てるという構図も少しずつ出来て来ています。指定養成校のため教員も卒業生もみんな在校生の目指す方向に一直線にいる状況です。かたや、YMC Aと言うグループは世界中に存在しています。その結びつきの根拠は「すべての命が豊かに守り育てられ愛に基づく正義と平和と和解に満ちた人間性溢れる社会を建設する」所にあります。「みんなの者が一つとなるために」という聖書からの言葉を共通としています。

<介護福祉科>「福祉」と言う言葉には「私の幸せ」と「あなたの幸せ」と言う両方の意味があります。専門技術の切り売りをする専門職ではなく、利用者さん、患者さんの幸せを求める事が自らの喜びでもある、と言う幸せの双方向性を実現するプロフェッショナルを育成したいと願っています。若者の介護離れが語られて久しくな

り、また仕事がかついののではないかと言うイメージに覆われている業界ではありますが、実際の職場は、明るく笑顔の絶えない場所です。

<作業療法学科>作業療法士はリハビリテーションの専門職の一つですが、その大きな特徴は「社会生活への復帰」と言う所にあります。単に肉体的（機能的）な修復・治癒を図るだけでなく、人間生活が成り立つような関わりをすると言う事です。それには職業生活も含まれますが、職業人であることが大切なのではなく、その人らしい生き方を主体的に行なっているかどうかと言う事に焦点が当てられます。

これからの時代の最大のキーワードは「高齢社会」です。医療従事者も福祉従事者も共に高齢社会に向けた最前線の働き人です。東京都産業教育振興会の会員の皆様と一緒にこれからの社会造りにあたっていきたいと考えています。



平成27年度「作文コンクール」募集のご案内

当会主催の「作文コンクール」を本年度も募集しております。対象は都内中学生と専門学科等の高校生・専修学校生等です。募集要項はすでに各会員校に送付してあります。要項をしっかりと読み期日までに、当会へ送付をお願いいたします。入選者には賞状と記念品を、参加者には参加賞を差し上げます。入選作品は、「明日に生きる」という冊子にして発行いたします。詳しくは各学校の担当の先生にお問い合わせください。応募締め切りは平成27年9月11日（金）となっております。

全国産業教育フェア三重大会のお知らせ

1. 期日：平成27年10月31日（土）～11月1日（日）
2. 会場：三重県宮サンアリーナ・三重交通G スポーツの杜伊勢（三重県宮総合競技場）体育館
三重県立相可高等学校、鳥羽港
3. 内容：式典・研究・意見・体験発表、ロボット競技会、クッキング・介護技術・フラワーアレンジメントコンテスト、展示・即売（学校生産物）等 下記の大会ホームページをご覧ください。

大会ホームページ <http://www.mie-c.ed.jp/sanfair2015>

全国中学生創造ものづくり教育フェア —中学生ものづくり甲子園—

1. 期日：平成28年1月23日（土）・24日（日）
2. 会場：武蔵野総合体育館、女子栄養大学
3. 内容：中学生ものづくりコンテスト（生徒作品コンクール・木工チャレンジコンテスト・創造アイデアロボットコンテスト・パソコン入力コンクール・あなたのためのお弁当コンクール・豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール）体験セミナー（おもちゃ作り）教材・産業紹介（教材・書籍・企業商品）技術・家庭科研修会

事務局より

- 平成27年度会報「東京の産業と教育」第148号をお届けいたします。発行に際しまして皆様にご協力いただきましたことを深く感謝申し上げますとともに、厚く御礼を申し上げます。
- 東京都の産業教育をさらに飛躍させるためにも、情報等を提供しております。また会員の募集も行っております。
- 会員の皆様からの御感想やご意見等がありましたら当会までお寄せください。
- 平成27年6月より東京都産業教育振興会が第一庁舎の北側39階に移転いたしました。（北側Aオレンジ色のエレベーターをご利用ください。）東京都産業教育振興会 ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育課内

TEL 03-5320-6729

FAX 03-5388-1727

印刷 昭和印刷株式会社